令和四年三月

漢詩鑑賞

**城西訪友人別墅**

**にのをぬ**

**澧水橋西小路斜　　の　めなり**

**日高猶未到君家　　くしておだがにらず**

**村園門巷多相似**く**はたり**

**處處春風枳殼花　　の　の**

【通釈】起句　澧水にかかる橋を西に渡ると、細い田舎道がうねうねと続

　　　　　　　いている。

　　　　承句　日はもう高く上っているのだが、まだ君の家にたどりつけ

　　　　　　　ない。

　　　　転句　の家々の庭園や門構えの小みちは皆似かよっている。

　　　　結句　春風がそよぎ、あちらにも　こちらにも、まがきの枳穀の

　　　　　　　花が白く咲いている。

【語釈】　城西　　都市の西。城は都市のまわりを囲んでいる壁。又その

　　　　　　　　　都市をいう。

　　　　　別墅　　別荘。別宅。墅は田舎の家。

　　　　　澧水　　川の名。湖南省の北部を東に流れて洞庭湖に注ぐ。

　　　　　門巷　　家の門とこみち。巷は町や村の小路。

　　　　　處處　　どこもかも。到るところ。あちらでもこちらでも。

　　　　　枳穀　　からたち。春末白い小花を開き、秋果をつける。とげ

　　　　　　　　　が多く、いけがきにする。

【押韻】　平声、麻韻。斜、家、花。

【解説】　雍陶（八〇五－？）は､晩唐の人。成都(四川省)の生まれ。

　　　　　進士及第の後、國子博士となり、簡州、雅州(いずれも四川省)の刺史(長官)を経て晩年は廬山に隠棲したという。賈島などと親交した。

　　　　　この詩は作者が、澧水の近くの村里に住む友人を訪ねた時の作。

　　　　　実体験をさらりと平易に詠じたもので、春ののどかな村里に車を進める姿が目に見えるような、美しい作品です。